

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400267
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム蒼月
所在地	西予市宇和町岡山545番地
自己評価作成日	平成23年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者それぞれの持っている力を引き出して行けるよう援助していきたいと考えている。一緒に行動していく中で、利用者が何を考え、何をしようとしているかを理解するために、すぐに手を出さず、待つ姿勢を大切にしている。地域の方に気軽に立ち寄ってもらえる場としていきたいため、毎年納涼祭を開催し、理解に努めている。医療連携体制をとっており、週1回の看護師の訪問を受けている。医師の月2回の往診や、協力医療機関との毎日の状況報告などで、健康面にも配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員は、利用者の今までの生活歴や思いを大切に、一人ひとりに合わせた入浴支援や楽しい食事等、利用者が自分のペースで気持ち良く生活できる心のこもったケアを実践している。介護記録は常に個々のプランを意識して支援できるような工夫がされており、細やかなサービスにつながっている。明るく広いホームからはのどかな田園風景が見え、思い思いの場所でゆっくり過ごせるようになっている。法人代表者が医師であり、健康管理や緊急時の体制も整備されており安心して過ごす事ができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム蒼月
(ユニット名)	第1ユニット
記入者(管理者)	
氏名	浮村 祐政
評価完了日	平成23年 9月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 運営法人の運営理念をもとに、各ユニットでの方針を作り、個人の年間目標も掲げている。</p> <p>(外部評価) 法人の運営理念を基に、地域の中で利用者が自分らしく生活していくことを重視した方針を各ユニットで作成し、さらに職員全体が理念を意識しケアの実践につながるよう一年間の目標を立て、事業所内に掲示しサービスの提供に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事（小学校運動会・祭り）への参加や蒼月納涼祭などを行い、地域の方と交流を持つよう努力している。地域の方に野菜や果物をいただいたり、小学生等の訪問もある。</p> <p>(外部評価) 毎年、事業所の納涼祭に、地域の方へ参加を呼びかけて交流を深めている。地域の行事にも積極的に参加し、近くの小学校の訪問や近所の方から野菜の差し入れがある等、日常的な交流もある。今年中には介護教室を予定しており、地域の方に情報を発信していこうとする様子が伺える。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 11月に介護者教室を開催する予定である。そこで地域の方に参加していただき、認知症について一緒に考えていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 意見等を文書に残し、職員全員が閲覧できるようにしている。特に利用者の思いを引き出せるよう努力している。	
			(外部評価) 会議の開催時に事業所の行事を取り入れる事もあり、出席者が発言しやすい雰囲気の中で運営している。事業所での取り組み等を検討し、会議で出された意見をサービス向上につなげている。	参加者が固定化されているため、消防団や婦人会等多方面から意見がもらえる様な取り組みを期待したい。行事の時に行った会議については、会議録の書き方の工夫が望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 権利擁護や成年後見制度を利用している方もおり、近隣の市町の職員とも相談しながら、援助方法を考えている。	
			(外部評価) 運営推進会議や介護認定更新の機会を利用し、利用者の課題について相談したり、連携ができており、気軽に相談できる関係にある。介護相談員の訪問もあり、利用者の相談に応じてもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 制限を設けると、精神的に不安定になりやすいということを職員も理解しており、安全に配慮して見守っている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束に関する勉強会に参加し、身体拘束や言葉での拘束をしないよう常に意識してケアに取り組んでいる。夜間帯のみ玄関を施錠おり、日中は安全に配慮し自由な暮らしを支えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 閉鎖的になると起こりやすい問題であるため、地域の方も気軽に立ち寄れるような場にしていきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用している方もおり、関係者と協力しながら援助している。職員全員が仕組みなど理解できるようにしていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に説明を行い、入居してからも疑問点などその都度解消できるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ケアカンファレンス等で話し合い、職員全員が把握し改善できるよう努めている。 (外部評価) 家族会は出席者も多く、利用者家族共に思いを伝える事ができる場となっている。家族の面会時には、思いを話してもらえるような声かけを工夫し、思いを汲み取るよう努めている。出された意見や要望は、職員全員が把握し運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会議等で意見をまとめている。それを管理者会議で提案していけるようになっている。</p> <p>(外部評価) 月に1回の職員会が意見や提案を出す場となっているが、日頃から管理者もケアに携わっており、職員が意見を言いやすい環境である。管理者会議は職員から出た意見を話し合う場となっており、その結果は会議録で職員全員が把握できるようになっている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務帯で負担がかからないよう調整している。資格取得により、賃金面でも考慮している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 年1回法人内全体での研修を行っている。月に一度勉強会を行っている。南予地区研修等、参加の呼びかけを行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 運営推進会議等で職員に参加を促している。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 理解に努めており、日々の気持ちの変化や体調なども考慮しながら接している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前に家族の思いを聞きだすことはもちろん、家族会や面会時等でも思いを引き出せるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要と思われることをケアプランとして提示し、同意を得て実施している。本人、家族との関わりの中から他のサービスも必要となれば相談して実施している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に行いながら、一緒に楽しめるようにしている。利用者同士の関わりが持てるよう、職員が仲立ちとなって接している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 少しでも利用者と家族との関係を深めるために、家族会や納涼祭で一緒に楽しんでもらったり、面会や外泊など自由にできるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 本人が行きたいときなど、自宅やなじみの場所に行けるよう努力している。知人の面会時にゆっくりと一緒にご一緒するよう配慮している。 (外部評価) 今までの馴染みの場所や人間関係について利用者や家族から聞き取り、住み慣れた実家に行ったり、墓参り等希望に応じて職員が支援している。知人の訪問や電話、手紙でのやり取りもあり、つながりを継続できるよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒にできることを職員も間に入って行ったり、楽しんで行えるよう考慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 移住先への情報提供はもちろん、本人、家族の不安な気持ちが少しでも軽減できるよう、連絡を取り合ったり出向いたりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いを引き出せるよう、本人や家族が落ち着ける場所で聞き取るようにしている。本人の表情や仕草などからも読み取っていきたい。	
			(外部評価) 日々の生活の中で声かけをし意向を確認しているが、行動や表情からも思いを汲み取り把握できるよう努めている。外出時や夜間居室に1人で居る時等に会話をしながら、希望を言いやすいよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 可能な限り自宅に赴き、思いはもちろん今までの暮らし方の把握にも努めている。親戚や友人からの情報も参考にしながら検討している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日中と夜間の状況を申し送りながら把握し、一緒に行動しながらその人の持っている力を引き出せるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画の設定期間のみでなく、月1度の会議でも実施状況や問題点を話し合うようにしている。本人、家族からの要望はその都度応えられるよう努力している。	
			(外部評価) 期間内での見直し以外にも、利用者の現状や家族の要望を反映して作成している。毎日の介護記録に目標を記入しており、常に職員全員が個々の目標を意識し日々のケアが行えるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録等で職員全員で把握するよう努め、見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 介護保険で支えきれない部分を関係者と協力しながら本人が安心して生活できるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 公民館の活用や近所の店への買い物等地域に出かけていくことで、地域の方にも支えていただきながら楽しく生活できるよう援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者・利用者のご家族の希望する医療機関で医療 が行える様にしている。 また当グループホームの係りつけの主治医による医 療が行えるなどの説明を行っている。	
			(外部評価) 利用者の今までのかかりつけ医や協力医療機関で受診 できるよう支援している。家族に受診の付き添いをして もらっており、状況に応じて職員も同行し日常の様 子を伝えるようにしている。また、法人代表者が医師 であるため適切な医療を受けられる体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 変化があった場合の電話連絡や週1回の医療連携看護師 の訪問により、情報交換は密にできている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関から月2回の往診や週1回の看護師訪問で 利用者の状態把握は頻繁に行われている。他の医療機 関への入院でも、連絡を取り合いながら情報交換して いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居前に看取り指針を提示して説明している。状況に 応じてその都度家族、医療機関と相談しながら本人に とって良い方法を検討している。	
			(外部評価) 入居時に利用者と家族に看取り指針に基づき説明を行 い、状態変化時には家族や医療機関と話し合いながら 意向を確認し取り組んでいる。今までに看取りの経験 もあり、医療連携体制も整備されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署員の協力により、救急講習を受けるようにしている（初級救急講習実施）。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、消防立会いで訓練を行っている。運営推進会議でこちら側が協力できることも議題として検討している。 (外部評価) 居室等にある家具の配置を確認したり、固定する等している。消防署の協力で避難訓練を定期的に行い、今年中にスプリンクラーが設置される予定である。居室の入り口には避難確認カードがかけられており、常に災害に対する意識を持つよう心がけている。	火災以外にも地震を想定した避難訓練を行ったり、備蓄の確保等の対策が望まれる。避難場所や方法等、地域と協力し合い安全かつ迅速に避難できるような体制作りが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄声掛けは本人の耳元で行ったり、入浴は1対1で行うなど配慮している。 (外部評価) 一人ひとりの人格を尊重し、利用者の気持ちを大切に考えて支援を行っている。排泄の声かけは利用者の耳元でそっと行ったり、プライバシーに配慮した対応や声かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 可能な限り希望したときにすぐに実現できるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 特に時間を決めず、その時の状況に応じて対応している。その人のペースを邪魔しないよう待つ姿勢を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 希望に応じた散髪の援助や着替えるときの服など選べるように配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に行えるよう、一緒に楽しめるようにしている。時間がかかっても自力で摂取できるよう工夫し、見守っている。 (外部評価) 利用者と職員が和やかな雰囲気の中で一緒に食事を楽しんでいる。献立は利用者の希望を取り入れる事もあり、調理や片付けも利用者と共に行う等、楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 摂取量は記録に残し、把握できるようにしている。水分摂取量の少ない方には、少しずつこまめに渡すなど配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後行うようにしているが、拒否の強い方には無理強いはしていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレで排泄できるよう、本人に合わせて定期的に声掛けを行っている。	
			(外部評価) 利用者の状態に応じてパンツやパット、オムツを使用しているが一人ひとりの排泄パターンを把握しており、気持ち良く排泄できるようトイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量を増やしたり、散歩等運動を勧めたり、トイレで座ってもらうことでなるべく自然排便できるように配慮している。排便チェックを行っており、どうしても出ない場合には医療機関へ相談し、指示を仰いでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 特に時間等決めておらず、毎日希望時に入る方もいる。拒否の多い方のみ時間をおいて再度勧めるなどこまめに声掛けをしているが、無理強いはしていない。	
			(外部評価) 利用者の希望を確認し、ほとんどの方が毎日入浴を楽しまれている。その日の気分や体調に合わせて気持ち良く入浴できるよう支援しており、入浴が苦手な利用者については、声かけや対応を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) フロアにたたみコーナーがあり、いつでも横になることができる。自室で休む場合も気温に注意しており、快適に過ごせるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医療機関と相談しながら服薬について注意を払っている。誤薬等無いよう、1人1人に手渡し確認している。新しい薬が出れば情報書ももらい、内容等把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 身体的に悪影響がない限り、特に制限は設けておらず、好きなことができるよう援助している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望や状態によって、買い物や散歩、ドライブなど行っている。	
			(外部評価) 利用者の希望によりドライブや近所を散歩したり積極的に外出を行っている。家族に外出の報告をして連携をとっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物時、行えるよう援助している。預かり金については毎月出納帳のコピーと領収証の原本を家族に送付して確認してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでもできるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 掃除や換気は毎日行い、玄関やベランダに花を植えたりしている。廊下等写真などを飾り、見て楽しめるよう努力している。	
			(外部評価) 大きな窓からはのどかな田園風景が見える。明るく広々とした空間には畳のコーナーが設けられ、利用者が思い思いの場所で寛げるようになっていいる。季節の花を生けたり、利用者と職員の写真を飾る等、家庭的な温かい雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) たたみコーナーで会話や歌を楽しんだり、居室で本を読んだり、居場所の確認はしながらも邪魔にならないよう配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に入るものなら、制限なく持ってきてもらうよう声をかけている。本人や家族の希望でテレビを設置している方もいる。環境整備にも配慮している。	
			(外部評価) ベッドとたんすが備え付けられ、さらに利用者の使い慣れたものが持ち込まれている。居室の一角に畳を敷き寛げるスペースを作る等、利用者の希望に沿って居心地の良い居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室内でベッドから立ち上がりやすいようにつかまるものを配置したり、音の鳴る物で転倒しやすい方の動きを把握できるようにしている。持っている力を制限しないよう、すぐに手を出したりしないよう気をつけている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400267
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム蒼月545番地
所在地	西予市宇和町岡山
自己評価作成日	平成 23 年 8 月 19 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設のまわりは、四方田園風景に囲まれ、米どころにふさわしい環境である。2階フロアで一番力を入れている所は利用者・家族との信頼関係である。家族の中にはホームが楽しいと言われ毎日のように来られ、他利用者と談話されたり、職員と世間話をされたり、笑いが絶えず、接遇の大切さもあるが、方言を使い、本人・家族間との距離を縮めている。次に、医療連携である。法人代表が医師であるため、365日、24時間いつでも連絡がとれ、日常の健康管理や緊急の場合、迅速に対応でき、利用者様に安心して暮らして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員は、利用者の今までの生活歴や思いを大切に、一人ひとりに合わせた入浴支援や楽しい食事等、利用者が自分のペースで気持ち良く生活できる心のこもったケアを実践している。介護記録は常に個々のプランを意識して支援できるような工夫がされており、細やかなサービスにつながっている。明るく広いホームからはのどかな田園風景が見え、思い思いの場所でゆっくり過ごせるようになっている。法人代表者が医師であり、健康管理や緊急時の体制も整備されており安心して過ごす事ができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 蒼月

(ユニット名) 第二ユニット

記入者(管理者)

氏名 越智 保子

評価完了日

平成23年 8月 19日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所理念、フロア理念、また年間の個人目標を立て、フロア内に掲示し職員全員で共有し実践につなげるよう努力している。また、朝礼時、会社のイズムを唱和しイズムの内容を理解し、業務にあたっている。</p> <p>(外部評価) 法人の運営理念を基に、地域の中で利用者が自分らしく生活していくことを重視した方針を各ユニットで作成し、さらに職員全体が理念を意識しケアの実践につながるよう一年間の目標を立て、事業所内に掲示しサービスの提供に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の運動会、祭り等で、地域住民と交流できるよう支援している。また、地域の保育所、小学生の訪問もあり、子供たち触れ合う機会を設けている。</p> <p>(外部評価) 毎年、事業所の納涼祭に、地域の方へ参加を呼びかけて交流を深めている。地域の行事にも積極的に参加し、近くの小学校の訪問や近所の方から野菜の差し入れがある等、日常的な交流もある。今年中には介護教室を予定しており、地域の方に情報を発信していこうとする様子が伺える。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 今までは出来ていなかったが、今年11月に初めての試みであるが、地域住民に向けて「介護教室」を開き、認知症を理解して頂くと共に、在宅で介護している方々に介護技術などを学んで頂く。介護に対する、不安を取り除いて頂き、教える事によって職員が勉強する場を作り質のレベルアップにもつなげたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、家族代表、利用者代表が自由に発言することができ、構成員の方々に助言を頂きながら、サービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 会議の開催時に事業所の行事を取り入れる事もあり、出席者が発言しやすい雰囲気の中で運営している。事業所での取り組み等を検討し、会議で出された意見をサービス向上につなげている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議に出席して頂いたり、いつでも気軽に相談や報告できるようなコミュニケーションができていると思う。また、介護相談員の定期的な訪問により、利用者の暮らしぶりを伝えている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議や介護認定更新の機会を利用し、利用者の課題について相談したり、連携ができており、気軽に相談できる関係にある。介護相談員の訪問もあり、利用者の相談に応じてもらっている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 玄関の施錠は夜間のみで、昼間は自由に出入りできるよう解放している。拘束においては、職員全員が理解しており、利用者の安全を考え、やむをえず拘束する場合は本人、家族に説明し同意書を頂いている。また、拘束時間帯を記録に明確に残し、月に1回検討会を行っている。</p> <p>(外部評価) 職員は身体拘束に関する勉強会に参加し、身体の拘束や言葉での拘束をしないよう常に意識してケアに取り組んでいる。夜間帯のみ玄関を施錠おり、日中は安全に配慮し自由な暮らしを支えるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) バイタルチェック時、入浴の際、身体観察を行い、異変を見過ごさないよう気をつけている。また、虐待に関する研修に参加し、参加した職員による勉強会を行い、職員全員が周知できるよう努力している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護を利用している利用者があるため、ある程度までは理解できていると思うが、新人スタッフの中には理解できていない職員もいると思う。制度を理解するためにも、早急に学ぶ機会を持ちたいと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は利用者、家族の意向を聞きながら十分な説明を行い、理解・納得をしていただいた上で契約を交わしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 当施設に対しての要望又苦情等は備え付けの用紙に記入し「ご意見箱」の投函して申し出ることができる。また、契約書の中に要望・苦情受付担当窓口の名称、電話番号を記載し紹介している。 (外部評価) 家族会は出席者も多く、利用者家族共に思いを伝える事ができる場となっている。家族の面会時には、思いを話してもらえようような声かけを工夫し、思いを汲み取るよう努めている。出された意見や要望は、職員全員が把握し運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 業務カンファレンス、ケアカンファレンス等で管理者は意見や提案を聞く機会があり、月1回法人全体の管理者会議において職員の意見を反映させることができる。</p> <p>(外部評価) 月に1回の職員会が意見や提案を出す場となっているが、日頃から管理者もケアに携わっており、職員が意見を言いやすい環境である。管理者会議は職員から出た意見を話し合う場となっており、その結果は会議録で職員全員が把握できるようになっている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者とは距離がなく、常日頃から意見交換ができる関係ができており、職員が向上心を持って働ける職場である。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人全体の研修を、専門講師に来て頂き、行っている。また、法人外の研修も参加できる機会を設けており、職員が安心して、研修に参加できている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 運営推進会議、法人外の研修で同業者と交流する機会があり、ネットワークにより色々な情報収集をすることができ、サービスの質の向上につなげるよう努力している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 施設見学、事前調査において、本人の不安なこと、困っていることに耳を傾け、安心してホームで生活できるよう、本人が納得できるまで説明を行ない、信頼関係が築けるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約時の事前調査の段階で家族が困っていること、不安なこと、要望等に十分に耳を傾け信頼関係ができるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族が必要としているサービスを見極めて、出来る限り本人・家族の希望に沿うように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者により多くふれ合い、話し合いを密にし、色々な気持ちや状態などを知り合えることができるよう、また、なんでも気軽に相談できるような関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) まず、家族が気軽に訪問して頂けるようなホーム作りを目指している。面会時、あるいは毎月家族宛に送る手紙で利用者の生活の状況、身体の状態を報告し、利用者の良いところ、問題点を共有し、共に本人を支えていく関係が築けるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方が、いつでも遠慮なく来所して頂けるようなホーム作りを目指している。希望があれば、馴染みの人に会ったり、馴染みの場所に行けるよう支援しているが、利用者からの要望が少ないのが現状である。利用者の馴染みの人、馴染みの場所を本人・家族に教えて頂きながら実行できるよう支援していきたいと思う。 (外部評価) 今までの馴染みの場所や人間関係について利用者や家族から聞き取り、住み慣れた実家に行ったり、墓参り等希望に応じて職員が支援している。知人の訪問や電話、手紙でのやり取りもあり、つながりを継続できるよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの特性を把握し、その上で利用者同士が関わり、支え合えるよう、家庭的な環境がもてるような雰囲気づくりに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスの利用が終了しても、必要に応じて相談や支援に努めている。また、他機関から要望があれば、本人・家族の同意の上で情報を提供し、本人・家族の不安が残らないよう支援している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 常に声かけをし、利用者一人ひとりの思いや、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。本人の表情や生活態度などを観察し、本人の思いを理解できるよう関わり、夜間帯に1人ひとりの居室を訪問し、困っていること、心配なことを本音で言って頂けるよう工夫している。 (外部評価) 日々の生活の中で声かけをし意向を確認しているが、行動や表情からも思いを汲み取り把握できるよう努めている。外出時や夜間居室に1人で居る時等に会話をしながら、希望を言いやすいよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査の情報、サマリー等をコピーし全職員が把握できるよう工夫している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録、経過観察記録、介護日誌にて職員全員が把握できている。また、利用者一人ひとりの異変や気づきを利用者の送りノートで共有できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族もサービス担当者会議に出席して頂くよう声かけをし、職員のみではなく本人・家族の意見、要望も取り入れて作成している。欠席の場合は、事前に意見、要望を聞き、面会時あるいは電話にて検討内容を報告し同意を頂いている。 (外部評価) 期間内での見直し以外にも、利用者の現状や家族の要望を反映して作成している。毎日の介護記録に目標を記入しており、常に職員全員が個々の目標を意識し日々のケアが行えるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) プランに沿った記録を書くよう努めている。実践の失敗、記録から得るアセスメントを活用し、介護計画の見直しを行っている。しかし、介護記録に不十分なところもあるので、手直ししていきたいと思う。職員間で情報は共有出来ていると思う。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 現段階では十分に事業所の多機能を活かしているとはいえない。当事業所の課題である。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 利用者全員が美容室の主張サービスを利用しており、美容室のスタッフと仲良く世間話をしている光景が見られる。また、定期的にマッサージを受けられている利用者も数名いらっしゃる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人及び家族の希望された医療機関の受診が行えるよう 支援している。その際、職員が通院介助を行っている。 また、法人代表が医師であるため、専門医との連 携をとることが出来る。	
			(外部評価) 利用者の今までのかかりつけ医や協力医療機関で受診 できるような支援している。家族に受診の付き添いをして もらっており、状況に応じて職員も同行し日常の様 子を伝えるようにしている。また、法人代表者が医師 であるため適切な医療を受けられる体制ができてい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 医療連携看護師の週二回の訪問時に情報や気づきを報 告、相談できる体制が整っており、適切な受診や看護 が受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病棟の看護師と情報交換をし、職員全員が公 休日を利用し交代で面会に行き、利用者に安心して頂 くと共に、認知の進行を防ぐ努力をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居契約時に利用者・家族に緊急時対応希望書の内容 の説明を行い、利用者が終末期になった時の受けられ る医療に対する希望を選択して頂いている。	
			(外部評価) 入居時に利用者と家族に看取り指針に基づき説明を行 い、状態変化時には家族や医療機関と話し合いながら 意向を確認し取り組んでいる。今までに看取りの経験 もあり、医療連携体制も整備されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年一回、会社全体で行う消防士による救命講習に参加し、実践力を身に付けるよう努力している。職員は消防署が発行している普通救命講習修了書を持っており、医療連携体制も周知している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に三回、消防署の職員に来て頂き防火訓練を実施している。地域の消防団、区長、民生委員の方々にも協力して頂けるような働きかけを行っている。 (外部評価) 居室等にある家具の配置を確認したり、固定する等している。消防署の協力で避難訓練を定期的に行い、今年中にスプリンクラーが設置される予定である。居室の入り口には避難確認カードがかけられており、常に災害に対する意識を持つよう心がけている。	火災以外にも地震を想定した避難訓練を行ったり、備蓄の確保等の対策が望まれる。避難場所や方法等、地域と協力し合い安全かつ迅速に避難できるような体制作りが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、今までの生活の歴史を壊すことのないような言葉かけや対応に気をつけている。また、排泄の声かけにも十分に配慮し、プライドを傷つけないよう気をつけている。 (外部評価) 一人ひとりの人格を尊重し、利用者の気持ちを大切に考えて支援を行っている。排泄の声かけは利用者の耳元でそっと行ったり、プライバシーに配慮した対応や声かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 常日頃から利用者に関わる時間を多く持ち、出来るだけ声かけや話し相手になり、利用者の思いや希望を知るよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活のペースを壊すことのないよう、声かけしたり観察したりしている。希望があればできる限り希望に添えるよう支援しているが、急な外出等は希望にそえない時もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その日に着る服を選んで頂いたり、衣類の汚れがあればさりげなく声かけをし着替えて頂いたり、その人らしいおしゃれを支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) できることを手伝って頂き、作る=食べる楽しみを支援している。共にテーブルを囲み利用者と同じものを食べ、楽しい雰囲気ですら食事をしていただけるよう支援している。メニューは利用者の好みを取り入れたり、季節のものを取り入れたり、家庭的な味付けを提供している。 (外部評価) 利用者と職員が和やかな雰囲気の中で一緒に食事を楽しんでいる。献立は利用者の希望を取り入れる事もあり、調理や片付けも利用者と共に行う等、楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの食事量、水分量を把握し記録に残し医療連携看護師に報告している。摂取量の少ない利用者には、好みの飲み物、食べ物を捕食として提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 職員全員が口腔ケアの必要性を理解しており、できない利用者はネオヨジンガーグルを浸透させたガーゼで口腔内拭き取り介助を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけを行い、昼間はなるべく布パンツを使用し、排泄の失敗がないよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の状態に応じてパンツやパット、オムツを使用しているが一人ひとりの排泄パターンを把握しており、気持ち良く排泄できるようトイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) メニューに野菜を多く取り入れ、適度な運動、腹部マッサージを施行し利用者一人ひとりに応じて対応している。また、毎朝牛乳を飲用して頂いている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 日勤帯は一人ひとりの希望に応じて対応しているが、夜勤帯はシフトの関係で支援できていないのが現状である。利用者の半数が夜間入浴を希望されており、入居前の習慣ができておらず利用者に迷惑をかけている。シフト体制の見直し、法人と一緒に検討する必要がある。	
			(外部評価) 利用者の希望を確認し、ほとんどの方が毎日入浴を楽しまれている。その日の気分や体調に合わせて気持ち良く入浴できるよう支援しており、入浴が苦手な利用者については、声かけや対応を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの休息・睡眠パターンを把握し、不眠の利用者に対しては昼間適度な運動をして頂いたり、安心して頂けるような声かけ、話し相手をし、なるべく眠剤に頼らないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの既往症を理解し、薬の知識を習得するよう努めており、定期薬表を作り効用・副作用を明記し、薬保管箱に貼付しいつでも見られるよう工夫している。症状に変化があれば、医師、医療連携看護師に迅速に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりで「できること・できないこと」を把握し、生活歴や残存能力を活かし毎日退屈しない生活を送れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりのその日の希望にそって外出できているとは言えない。利用者に今一番行きたい場所を尋ねると、2/3の利用者が「お墓参りがしたい」家族の協力も得ながら、来年は一人でも多くお墓参りができるよう真剣に取り組んでいきたいと思う。	
			(外部評価) 利用者の希望によりドライブや近所を散歩したり積極的に外出を行っている。家族に外出の報告をして連携をとっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的に金銭はホームで預かり管理している。利用者一人ひとりの力量に応じて家族と相談しながら、少ない金額を所持して頂き、買い物で支払をして頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば、いつでも連絡できるような体制を作っている。利用者が書けない場合は、毎月ホームから家族に送る手紙や電話にて要件を報告したりしているが、利用者からの要望は少ない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用の空間は清潔を心がけ、気持ちよく使って頂けるよう支援している。室温は動いてる職員に合わせるのではなく、座って頂いている利用者に合わせるよう気をつけている。また、絵や利用者と一緒に作った飾り物ので四季を感じて頂いている。</p> <p>(外部評価) 大きな窓からはのどかな田園風景が見える。明るく広々とした空間には畳のコーナーが設けられ、利用者が思い思いの場所で寛げるようになっていく。季節の花を生けたり、利用者や職員の写真を飾る等、家庭的な温かい雰囲気が感じられる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 畳の間にて気の合った利用者が談話したり、一緒にテレビを観たり、独りになりたい時は、居室に戻られたり、一人ひとりが思い思いに過ごせるよう支援している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時に、本人・家族と話し合い馴染みのものを持って頂くよう声かけしているが、殆んど家族が「汚くて、古い」と言われ、新しい物を購入され持って来られる。馴染みの物が認知症にどれだけ影響するか、本人・家族に理解して頂けるよう今まで以上に説明をしていきたいと思う。</p> <p>(外部評価) ベッドとたんすが備え付けられ、さらに利用者の使い慣れたものが持ち込まれている。居室の一角に畳を敷き寛げるスペースを作る等、利用者の希望に沿って居心地の良い居室づくりを支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下・トイレに手すりを設置し、ホーム内は段差をなくし安全に生活できるよう支援している。馴染みの畳の間にて、談話されたり、午睡されたり、ゆったり過ごせるよう支援している。</p>	